

ホップに関する資料

平成 26 年 9 月
岩手県農林水産部農産園芸課

1 岩手県のホップ生産について

本県は、栽培面積75ha、生産量127t（H25年実績）で、全国の作付面積の約4割を占める国内第1位のホップ産地となっています。

ホップはビール会社との契約栽培であり、安定した収益が見込まれることから、栽培農家にとって重要な作物となっていますが、近年、生産者及び栽培面積が減少傾向にあります。

県は、ホップ産地の維持と農家経営の安定を図るため、県産ホップに係る農薬適正使用の情報発信などにより、安全・安心で高品質な生産を推進しています。

【表1 岩手県のホップ生産状況の推移】

年産	元年	5年	10年	15年	20年	22年	23年	24年	25年
栽培面積 (ha)	320	235	155	104	87	83	82	79	75
生産量 (t)	647	369	268	202	177	156	159	162	127
単収 (kg/10a)	202	157	173	194	204	187	195	205	169
1等品比率 (%)	95.2	96.7	86.3	96.1	89.5	92.0	95.7	93.9	91.0
栽培戸数 (戸)	538	354	225	133	115	111	111	107	99
生産額 (百万円)	1,350	760	555	409	374	330	339	344	270

※資料：ホップに関する資料（全国ホップ連合会）

【表2 農協及び生産組合別面積（平成25年産）】

（単位 ha）

岩手県北ホップ 農業協同組合 〔岩手町、軽米町、青森 県〕	サントリー ホップ生産組合 〔紫波町、花巻市〕	岩手アサヒ ホップ生産組合 〔盛岡市玉山区〕	遠野ホップ 農業協同組合 〔遠野市〕	江刺忽布 農業協同組合 〔奥州市、北上市〕
23.9	0.9	0.9	31.8	17.9

※岩手県北ホップ農業協同組合の面積は青森県分（7.0ha）を除く。

2 平成25年産の生産状況

春先の干ばつによる花数の減少、7月の長雨による湿害の影響を受け、生産量は127tと前年度より35tの減少となりましたが、1等品率91%と平年並の品質となりました。



3 全国の状況

現在、国産ホップは、北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県で栽培されています。

【表 全国順位（平成25年産）】

	1位	2位	3位
面積	岩手県（75ha）	秋田県（46ha）	山形県（29ha）
収穫量	岩手県（127t）	秋田県（88t）	山形県（52t）

4 岩手県のホップ栽培の歩み

年次	産地の動き
昭和31年	県内で初めて、江刺町（現奥州市江刺区）で6.4ha 植栽。 ※宝酒造との契約栽培。この後昭和40年にキリンビールに契約変更。
37年	軽米町を中心に県北部で9.7ha 植栽。その後九戸村、二戸市、一戸町、浄法町（現二戸市浄法寺町）に広がる。 岩手町で20a 試作。その後6.3ha（昭和60年）まで栽培面積が拡大。 ※日本ビール（現サッポロビール）との契約栽培。 ----- 玉山村（現盛岡市玉山区）で試作開始。翌年2.8ha で栽培。 ※朝日麦酒株式会社（現アサヒビール）との契約栽培。 ----- 紫波町で4.2ha の栽培を開始。 ※株式会社寿屋（現サントリー）との契約栽培。
38年	遠野市で7.6ha 植栽。 ※キリンビールとの契約栽培。日本のビール大手4社が本県に進出。
39年	ホップ振興を図るため、岩手県ホップ連絡協議会を発足。
45年	第1回岩手県ホップ共進会を開催。 岩手県ホップ連絡協議会が岩手県ホップ連合会に改組。
46年	第1回岩手県ホップ生産者大会を開催。
59年	岩手県のホップ栽培面積が343ha となり、山形県を抜き日本一となる。生産額14億円達成。
60年	6月、9月に台風被害を受けるが、ホップ生産額、13億5千万円達成。
61年	栽培面積338ha、生産量638t、生産額15億円達成。名実ともに日本一のホップ生産となる。 以降も作付面積、生産量、生産額いずれも日本一のホップ産地として、現在に至る。
62年	史上初のホップ価格の引き下げ決定。
平成5年	岩手県農業祭へ岩手県ホップ連合会として初参加。
10年	岩手県ホップ生産40周年記念大会開催。
12年	第28回岩手県農業賞受賞（遠野ホップ組合）。
14年	ホップ栽培暦検討会発足。
17年	江刺忽布農業協同組合創立50周年記念式典開催。
18年	全国ホップ連技術研修開催（岩手県北管内）。
20年	岩手県ホップ導入50周年記念祝賀会開催、記念誌発行。
25年	岩手県北ホップ農業協同組合創立50周年記念式典開催。 遠野ホップ農業協同組合創立50周年記念式典開催。